

科 目 名	文化人類学	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			前期	□必修 ■選択
英文表記	Cultural Anthropology	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年	
ふりがな	かまだ ゆきお	修得単位	2 単位	
担当者名	鎌田 幸男			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕文化人類学とは、どのような学問か、何を明らかにするのか。 〔テーマ〕民族学と民俗学の視点から考える。			
準備学習	・新聞、テレビ、本などを通じて世界の民族の生活に関心を持ち、ノートにメモをする。 ・「文化人類学入門」（中公新書）を読んでおく。			
【授業概要】文化人類学は、人類学の領域の学問である。そして世界の様々な民族がもつ文化や社会について比較研究する学問である。研究の方法は、フィールドワークにより具体的、実証的にとらえた研究をするところに特色がある。そこから民族の歴史や文化の伝播、民族がもつ伝統文化を知ることができる。本講義では、世界の諸民族の暮らしぶりー民族学の成果を基盤に異文化社会の生活様式を取り上げる。そこから文化人類学の目的や役割について考える。				
授業計画				
第1回 文化人類学の世界ーどのような学問だろうか				
第2回 文化人類学の区分ーアメリカ、イギリス、ドイツ、日本の区分について考える				
第3回 日本の文化人類学の歩みー研究の歴史を考える				
第4回 二つの「みんぞく」学ー民族学と民俗学（柳田国男と折口信夫と渋沢敬三）を知る				
第5回 文化人類学の諸分野について				
第6回 フィールドワーク、一マリノフスキーの調査から（経済活動ークラ・交易を考える）				
第7回 異文化理解のための多様な社会を考える				
第8回 狩猟・採集民と牧畜民の社会を考える（日本のナラ林文化を含む）				
第9回 農耕社会と都市社会を考える(日本の照葉樹林文化を含む)				
第10回 超自然の世界ーアニミズム、シャーマニズムについて考える				
第11回 日本のシャーマニズムについて考える(卑弥呼、巫女など)				
第12回 文化の進化と伝播ー民話と神話、ダーウインの進化論も考える				
第13回 多様な人間関係ー通過儀礼の構造から				
第14回 人間だけがもつ言語の文化一言語の役割を考える				
第15回 まとめと課題ー新しい領域などについて考える				
第16回 定期試験				
テキスト	講義のときにプリントを配布。			
参考文献	文化人類学入門（中公新書）、文化人類学を学ぶ人のために（世界思想社）			
評価の方法	定期試験(70点)、レポート(15点)、出席(10点)、授業態度(5点)を総合評価。			
学生への メッセージ	・ 世界の人々の生活と文化に目を向けてほしい。 ・ ノートを持って、前向きな受講をしてほしい ・ 民俗誌を読む			

科 目 名	秋田県の歴史と文化	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			後期	□必修 ■選択
英文表記	History and Culture in Akita Prefecture	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	かまだ ゆきお	修得単位	2 単位	
担当者名	鎌田 幸男			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕秋田県の歴史と文化の概要を知り、主要な資源と物産を考える。 〔テーマ〕郷土の歴史や文化、文化財に関心をもつ。			
準備学習	新聞などを通じて郷土の歴史や文化、文化財に目を通す。興味のあるところは、ノートに書いておく。			
【授業概要】秋田県の歴史の全体像に触れるが、とくに江戸時代以降の歴史と人物と文化に視点をあてて考える。また秋田県は、地理的環境から全国有数の穀倉地帯であり、更に天然の秋田杉を産出してきた。また秋田を訪ねた文人や紀行家、秋田の偉人にも目をむける。こうした風土の上に伝統ある文化を築いてきたが、本講義を通じて秋田県の歴史や文化の概要を把握し、あわせて郷土の歴史や文化に興味と関心をもち愛着心を養いたい。				
授業計画				
第1回 秋田県の夜明け―地理的環境を知る				
第2回 出羽郡と出羽柵と秋田城を考える				
第3回 出羽と平泉文化―清原氏と後三年の役から				
第4回 神仏を求めて―熊野信仰と修験道の浸透				
第5回 安東氏の秋田進出とその時代―秋田定着、日本海の海運のこと				
第6回 佐竹氏と秋田藩―佐竹義宣、久保田城と町割り				
第7回 鉱山の隆盛と民衆、 藩財政を潤した秋田杉など				
第8回 土崎港の賑わい―雄物川を下る秋田の米、能代港、北前船の往来				
第9回 近代秋田のはじまり―戊辰戦争と明治初年の秋田				
第10回 みちのく秋田の文化を考える				
第11回 菅江真澄の足跡				
第12回 佐藤信淵と平田篤胤の思想を知る				
第13回 老農・石川理紀之助の足跡				
第14回 秋田の文化財を考える				
第15回 戦後の秋田―変わり行く八郎潟干拓とその後				
第16回 定期試験				
テキスト	講義のときプリントを配布			
参考文献	秋田県の歴史と風土（創土社）、風土と文化（秋田県書店組合）			
評価の方法	定期試験(70点)、レポート(15点)、出席(10点)、受講態度(5点)の総合評価			
学生への メッセージ	・本学の雪国民俗館、県立博物館、赤れんが館などを見学して見聞を広げてほしい。 ・ノートをきちんと持ち、前向きに受講してほしい。			

科 目 名	交通地理入門	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Traffic Geography	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	ごとう ただし	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	後藤 忠志	修得単位	2単位	
授業の到達 目標 及びテーマ	〔到達目標〕世界や日本、そして秋田県におけるさまざまな交通手段について学び、地域やビジネスとの関わりを修得すること 〔テーマ〕交通と地域・ビジネス			
準備学習	・新聞や TV など、交通に関する最新の日本情勢や世界情勢を把握しておく、より理解が深まるでしょう			
【授業概要】主にわが国や秋田県における、さまざまな交通手段について学び、地域やビジネスとの関わりを修得すること。				
授業計画				
第1回 ガイダンス、交通と地域・ビジネス1（新交通と巨大構造物）				
第2回 交通と地域・ビジネス2（新幹線、航空機、鉄道在来線）				
第3回 交通と地域・ビジネス3（地下鉄、LRT、船舶、バス、タクシー）				
第4回 交通と地域・ビジネス4（各駅、付帯ビジネス）				
第5回 割引切符と車内販売、サイドビジネス				
第6回 公共交通を考える1（旅客輸送の歴史と文化）				
第7回 公共交通を考える2（飛行機と航空文化、船）				
第8回 公共交通を考える3（JR と私鉄、都市型鉄道）				
第9回 公共交通を考える4（新公共交通）				
第10回 公共交通を考える5（環境にやさしい車）				
第11回 公共交通を考える6（環境にやさしい交通）				
第12回 公共交通を考える7（交通弱者とバリアフリー）				
第13回 秋田の交通1（道路）				
第14回 秋田の交通2（港湾、空港）				
第15回 秋田の交通3（鉄道、ニュータウン、地域連携）				
第16回 試験				
テキスト	ありません。			
参考文献	授業中に紹介します。			
評価の方法	総合評価(出欠、受講態度、提出物、試験等)			
学生へのメ ッセージ	普段から身の回りの交通に関心を持っていると学びやすいでしょう。			

科 目 名	地域産業論	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
英文表記	Regional Industry	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	ごとう ただし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	後藤 忠志	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本や地域の発展における工業の意味や役割を理解すること 〔テーマ〕国土開発の歩みと第2次産業の地域構造			
準備学習	・新聞やTVなどで工業に関する、最新の日本情勢や世界情勢を把握しておく、より理解が深まるでしょう			
【授業概要】主に国土開発計画の歴史と内容をふまえながら、産業の集積と地域の発展・衰退について解説し、産業集積の地域構造を学びます。特に、工業を中心に講義します。				
授業計画				
第1回 地域で異なる産業				
第2回 グローバル化のなかの地域と経済				
第3回 人口集積とその動向				
第4回 産業関係の統計の見方				
第5回 工業地理学 総論				
第6回 日本の国土政策の推移と特徴1				
第7回 日本の国土政策の推移と特徴2				
第8回 日本の国土政策の推移と特徴3				
第9回 日本の工業地域1 京浜工業地帯				
第10回 日本の工業地域2 中京工業地帯				
第11回 日本の工業地域3 北関東・山陽・北九州の工業地域・都市				
第12回 日本の工業地域4 東北の工業地域・都市				
第13回 地場産業 総論				
第14回 秋田県の地場産業				
第15回 鉱業エネルギー地理学				
第16回 試験				
テキスト	ありません。			
参考文献	授業中に紹介します。			
評価の方法	総合評価(出欠、受講態度、提出物、試験等)			
学生へのメッセージ	普段から、新聞やTVで時事には留意しておくことを望みます。			

科 目 名	旅行業法と約款	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			観光	□必修 ■選択
			法律	□必修 □選択
英文表記	Tour Business Law & Articles of Contract	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	みちはた ただよし	開講期間 修得単位	■前期 □後期 □通年 □集中 2 単位	
担当者名	道端 忠孝			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕受験対策としての旅行業法・旅行業約款 〔テーマ〕いかにして企画旅行参加者は保護されているか			
準備学習	最低限、授業予定についての予習をし、ポイントをノートに整理してください。			
【授業概要】 本稿は、旅行業務取扱管理者試験の出題科目である旅行業法と旅行業約款を対象とします。旅行業法は、根本的には、旅行者の保護を目的にしていますが、その保護のしくみ（登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度など）を明らかにします。 また、旅行業約款は、旅行者があらかじめ定める契約条項ですが、現在、標準旅行業約款が用いられていますので、この内容を中心に講義します。				
授業計画				
第1回 旅行業法、旅行業務取扱管理者試験の概要				
第2回 旅行業法の目的・体系				
第3回 旅行業法の規制概要				
第4回 旅行業の定義				
第5回 旅行業の登録など				
第6回 営業保証金と弁済業務保証金分担金				
第7回 営業上の規制①				
第8回 営業上の規制②				
第9回 営業上の規制③				
第10回 標準旅行業約款の概要				
第11回 募集型企画旅行契約①				
第12回 募集型企画旅行契約②				
第13回 募集型企画旅行契約③				
第14回 受注型企画旅行契約				
第15回 手配旅行契約・旅行相談契約				
第16回 試験				
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	開講時に指示する。			
評価の方法	試験と出席状況・受講態度で総合評価します。			
学生への メッセージ	自分がパック旅行に参加する場合を想定し、自分の心配や不安に対する法的な保護を考えてみましょう。			